

# 一般質問要旨



## おおた鶴生田町太陽光発電所の諸課題と今後の対応について



立憲民主党 神谷 大輔

議員 おおた鶴生田町太陽光発電所では強雨時に周辺への越水被害が発生していますが、その経過と対策について伺います。



産業環境部長 平成26年9月に周辺住民から最初の相談を受けて、28年度から30年度にかけて場内の調整池や排水路、周辺道路の側溝等を整備し、令和元年度から本年度にかけて排水路等を追加整備しました。今後は雨水滞留の解消のため、貯め枿たくわえの設置と側溝へつなく暗渠あんきょ工事を行いたいと考えます。

議員 発電所内への鉄鋼スラグの敷設の経緯と現状を伺います。

産業環境部長 ぬかるみや雑草対策と

して敷設したようですが、水を含んで固まり、施設の排水機能が低下しています。使用した製品はJIS規格に適合しており、有害性はないと考えます。

議員 越水被害対策の長期化等の問題を踏まえ、周辺住民が不安から解放されるよう解決を図るべきと考えますが、市長の所見を伺います。

市長 越水被害への対応が遅れたことは反省しています。その後最善を尽くしていますので、普段の降雨時には十分対応できる環境になると思います。

議員 鉄鋼スラグに関して周辺住民の健康への影響も心配されます。環境調査を実施することで安心につながると考えますが、所見を伺います。

市長 万全を期した製品です。担当課が把握している試験報告書を周辺住民に確認してもらえればと思います。

### ■その他の質問

・外国人労働者特区申請の検証について



## 陳情の課題について —都市政策部が取扱う陳情案件について—



太田クラブ 大川 敬道

議員 令和元年度に設けた、陳情の新採択基準の目的と内容を伺います。

都市政策部長 本市の道路行政を取り巻く環境は、農地の宅地化や気候変動に伴う道路冠水等により変化しています。市民ニーズに即した評価項目や採択基準を新たに設け、それを数値化することにより効率的で効果的な整備推進を図ることが目的です。具体的には学童の通学路を中心に、緊急性や安全性等さまざまな視点で評価しています。

議員 道路整備課で受理した陳情のうち、未着手の175件全てを新基準により評価し、得点と優先順位を可視化すべきと考えますが、所見を伺います。



都市政策部長 古い陳情には緊急性や必要性の低い案件が残っている状況です。新基準策定前の案件と策定後の案件は、バランスをとりつつ進めるべきと考えます。なお、新基準による各案件の得点は、行政センター所長を通じて地域に報告しています。全体の順位の公表は考えていませんが、透明性の確保について今後研究したいと思います。

議員 未着手案件のうち新基準により評価したのは22件とのこと。残りの約150件も評価して事業化すべきと考えますが、市長の所見を伺います。

市長 地域の実情を見て、緊急性の有無は必ず判断していると考えます。未着手の案件は地域と一緒に判断して残している状況だと思います。緊急性の高いものはできるだけ早く手掛けるようにして、市民の利便性も安全性も守っていきたくと思っています。

### ■その他の質問

・農政部が取扱う陳情案件について



## 太田市藪塚本町中央運動公園に隣接した排水施設の管理について



創政クラブ 高藤 幸偉

議員 藪塚本町中央運動公園の悪臭苦情の把握状況について伺います。

文化スポーツ部長 公園東側の多目的広場に隣接する排水路からの臭気についての苦情を把握しています。

議員 臭気の抑制と安全の確保のため、具体的な対策を行うべきと考えますが、所見を伺います。

農政部長 点検や作業に支障を来すため、排水路にふたを掛けられないことから、多面的機能支払交付金事業で定期的にしゅんせつを行っています。農村整備課でも堆積物やごみの状況を定期的に確認したいと思います。

議員 悪臭への対応経過を伺います。

産業環境部長 平成28年6月に最初の苦情があり、当時は排水路の汚泥が原因とされていたため、農村整備課が清掃を行いました。続いて平成29年3月に再度苦情があり調査したところ、原因と思われる2事業所が特定できました。立ち入り調査の結果、水質汚濁防止法の排水

基準超過を確認したため改善指導を行い、一方は施設の整備を完了しました。もう一方は公共下水道に接続するため協議中で、水質検査の結果を確認後、接続工事を行う予定です。



議員 本事例は行政として組織の枠を超えた横断的な対応が求められるもので、その実現が早期解決につながると考えますが、市長の所見を伺います。

市長 各部署がたらい回しにすることのないよう、原因の把握と問題解決に積極的に取り組むたいと思います。

### ■その他の質問

・道路の保全及び整備への対応について



## スポーツ等による交流人口の拡大施策について



創政クラブ 矢部 伸幸

議員 近年大きな盛り上がりを見せるeスポーツや新たに注目されるスケートボードについて所見を伺います。

文化スポーツ部長 スケートボードはオリンピックで正式種目となり、若者からの人気の高さを認識しています。eスポーツについては県が令和2年4月にeスポーツ・新コンテンツ創出課を創設しましたので、今後、県や先進地の動向を注視していきたいと考えます。

議員 オリンピック終了後、スケートボードはさらに人気が上がると思います。延期しているスケートパークの建設に今から着手すれば、絶好のタイミングで完成すると考えますが、所見を伺います。

都市政策部長 財政基盤が安定するまでは延期せざるを得ないと考えます。

議員 勉強やスポーツが苦手な子どもも活躍できるものとしてeスポーツという選択肢があってほしいと思います。eスポーツについて市長の所見を伺います。

市長 非常に興味のあるテーマです。

一般的なスポーツと比べても国内の競技人口が多く、国体でも取り上げられる等、大きな可能性を感じます。建設中の新市民体育館にeスポーツを呼び込み、プログラムを運営できるような環境をつくれるのではないかと考えます。

議員 スケートパークの早期実現について所見を伺います。

市長 北関東自動車道を通じて近隣県から人を集め、本市の認知度アップ、交流人口の増加につなげたいと思います。コートだけでなくトイレや来場者が交流できる施設等も必要で、かなりの予算がかかりますので、補助金の活用も考えながら着手に向けて動きたいと考えます。

